様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年４月２５日現在

機関番号：12501
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：20320076
研究課題名（和文）
英語の批判的読解力と論理的発表力の育成―小中高大における系統的母語指導と連携して
研究課題名（英文）Constructing an Integrated System of English Education at Japanese Primary, Junior and Senior High Schools, and Universities with Special Emphasis on Developing Critical Reading and Logical Presentation Skills in Japanese and English
研究代表者椎名　紀久子（SHIINA　KIKUKO）
千葉大学・言語教育センター・教授
研究者番号：40261888

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・外国語教育
キーワード：
(1) クリティカル・シンキング　(2) 論理的発表力　(3) 教材と指導法 (4) 歴史と倫理教育
(5) 英語力 (6) 国語力　(7) ドイツの言語技術育成　(8) Thinking Map（思考のマッピング）

１．研究計画の概要

近年の国際化社会にあって、国内外で日常的に直面する多様な異文化摩擦や諸問題を平和的に解決するには、与えられた情報を鵜呑みにせずに、複数の視点から批判的・論理的に思考して、独創的な解決策を発信していく力が、「母語としての日本語」と「英語」の両言語で求められている。本研究では、「批判的に読解」(Critical Reading) し「論理的に発信」(Logical Presentation) する力を、両言語で、小中高大の有機的な連携のもとに育成したいと考え、そのための指導法と教材のプロトタイプを開発することを目的としている。具体的には次のとおりである。

(1) 批判的・論理的思考力養成

小中高で学ぶ国語や国語以外の教科内容、大学の一般教養科目や新聞・雑誌等で接する知的で身近なコンテンツ、歴史や倫理に関連する題材を取り上げることで、人文社会科学の知識習得にも寄与する教材のプロトタイプを作成し、「批判的に思考して論理的に発信できる学習者」の育成に取り組む。教材化には英語教育、史学、法哲学・生命倫理の研究者が取り組む。

(2) 英語の語彙力養成

効果的なコミュニケーションには豊かな語彙力が必須である。個重視の自律学習を促す「英語の語彙指導用 CALL 教材」(開発済みのプロトタイプ) と、協働作業重視の対面式授業を有機的に組み合わせた指導法 (Blended Learning) を提案し、英語の「語彙力」と「チャンク単位で情報を理解していく力」の養成を図る。

２．研究の進捗状況

(1) 2008 年度

① 日本の現行の国語教育が「批判的・論理的」な思考を養成する教科として位置付けられていないことに起因して、日本の高校１年生の読解力がグローバル社会に必ずしも対応できない現状を OECD 実施の PISA 調査の結果分析を通して明らかにした。

② PISA で成績が連続トップのフィンランドと日本の国語の教科書を比較した結果、フィンランドは学習者自身に徹底的に考えさせるタスクを課して思考力と言語力を育成していることが明らかになった。

③ 英国の Exeter 大学で、研究代表者（椎名）ほか４名の研究分担者が「思考力の育成法」の研修を受け、THINKING SCHOOL PROJECT「思考力養成を目的とした全学的プロジェクト」の実施校（初等・中等学校）３校の授業参観をした。統一教科書を使用せずに各教科の教師が独自の資料でクリティカ・シンキングを育成し、ロジカルに意見を言わせる授業展開は知識集積が主目的の日本と大きく異なることがわかった。

④ 大学生対象の教材開発試案として、「合衆国憲法と表現の自由」を題材にしてクリティカル・シンキングを育成する方法を探ったほか、「歴史の一次史料を使ったクリティカル・シンキングを刺激する世界史教材の開発」と「対面的歴史教育でのクリティカル・シンキングの引き出し方」を検討した。

⑤ 成果

➢ 「批判的思考」とは、「他者の落ち度を指摘して糾弾するという攻撃的な『批判』で

はなく、「自らの思考について省察して精査し、客観的、論理的に判断する思考力」（Zechmeister&Johnson,1992)と定義した。

- 学習者の論理的・批判的思考を促すには、国語だけでなくすべての教科で、知識集積に終始しない、学習者に考えさせる Q&A 方式の授業展開が重要である。
- 学習者の思考力育成には「コンテンツ重視」の教材開発が必須である。

(2) 2009 年度

① 英語を母語とする国（英国）で、多様な教科でクリティカル・シンキングとロジカルシンキングを育成している授業を視察し、教員への聞き取り調査を行った。

② 英語を外国語とする国（ドイツ、オーストリア)の初等・中等学校で、Content-based の教材で母語（ドイツ語）指導と英語指導を有機的に連携させながら論理的・批判的思考力を養成する授業を視察した。

③ クリティカル・シンキングに関連する「メタ認知」の発達段階、レトリック、協働学習などの知見をシステマティックに組み入れた指導法構築のための文献調査を行った。

④ “Thinking Map”（思考のマッピング）を使った指導法のトレーニングをイングランドで受け、指導資格証を得た。

⑤ 成果

- 言語力（日本語）と思考力の両方を、国語だけでなくそれ以外の教科でも育成する授業方法の開発糸口を探ることができた。
- 日本の新指導要領が謳う思考力の養成と英語教育改善の糸口を探ることができた。

(3) 2010 年度

① ハンブルク市とミュンヘン市で教師や教育庁のカリキュラム担当者にインタビューし、ハンブルク市のギムナジウムではドイツ語（母語）と英語（第二外国語）で「歴史」科目を指導してクリティカル・シンキングを養成する授業を参観した。

② 「思考のマップ化」に関する授業を英語科目と、日本語科目(「文章・口頭表現演習」)で行い、指導法開発の一助とした。

③ 史学方法論を視野に入れて、「日本語と英語の比較的小さな歴史史料」を「批判的思考の発達段階」に合わせて学習者に質疑応答する方法を考察し、教材化の準備をした。

④ 成果

- クリティカル・シンキングこそ「アカデミックな知識獲得」と「実社会で生きる力」の根幹だとしてドイツの初等・中等教育（ギムナジウム:5 年生-12 年生)で採用されている「言語技術」指導は、日本でも全教科に組み込むべき有効な手法である。
- クリティカル・シンキングの育成には、「思考力」と「言語力」の連携指導が重要で、それにはまず母語で基礎固めをしてから外国語に応用すると効果的である。

３．現在までの達成度

（ ② ）おおむね順調に進展している

理由：英国やドイツの学校視察や教材分析により、クリティカル・シンキングとロジカル・プレゼンテーションの養成方法と教材開発方法がより具体的に理解できた。母語でクリティカルに思考できなければ外国語ではさらにできないことがドイツの教育者、学習者の意見聴取から明確になり、母語育成と外国語力育成の連携の重要性が一層明らかになり、当初立てた３年間の年度計画をほぼ達成していると考えている。

４．今後の研究の推進方策

ドイツの外国語（英語）教育と母語（ドイツ語）教育の連携を、言語体系がまったく異なる日本の母語（日本語）教育と英語教育にそのまま当てはめることはできない。日本の教育現場にいかに適用するかが大きな課題であることから、次のことに力点を置く。

(1) クリティカル・シンキングとは、「より正確な情報」に基づいて「自己の考えを客観的に精査」して「自ら判断を下せること」なので、全教科で養成しうる力であることを他教科の教員にも理解してもらう。

(2)「自分で思考でき」、考えたことを「効果的に発信できる学習者」の育成は車の両輪で、「思考」には他教科のコンテンツを活用すれば連携が可能になることを、国語、英語、他教科の教員に理解してもらう。

(3) 英語のクリティカル・シンキング用教材開発ができた時点で、それを支援するかたちで語彙力養成用の CALL 教材を作成する。

５． 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計 19 件）

① 椎名紀久子他 2 名、「世界水準の英語教育を考える」、『英語展望 特集号』（ELEC Bulletin)、No.116、30-35、2008、査読有

〔学会発表〕（計 16 件）

① SHIINA Kikuko, Expanding English Vocabulary with Joy, The 8th ASIA TEFL, 6th August, 2010, Vietnam.

② 椎名紀久子、「毎授業後に実施する授業評価の集計と分析を容易にする Web システムの開発、外国語教育メディア学会、2010 年 8 月 4 日、サイエンスフロンティア高校

〔図書〕（計 8 件）

① 冨田祐一、椎名紀久子、高橋美由紀、中部日本教育文化会、「日本人小学生を対象にした名詞習得の基礎的研究」、『これからの小中英語教育を創る―新学習指導要領に基づく小中高の連続性を見据えた英語教育のあり方―』、2011、54-73

② 椎名紀久子、角川 SS コミュニケーションズ、『TOEIC テストで高得点：チャンクで伸ばすリスニング』、2009、220